

地域情報



あの上 五條高校賀名生分校が農業に「夢・志」のある生徒を全国募集開始 ～新しい時代の農業の担い手を地域を挙げて育成～

■来春・平成30年度入試から全国募集開始

奈良県五條市は、柿生産高日本一を誇る全国有数の農業生産地域だが、農業従事者の減少や高齢化が大きな課題となっている。

そうした中、『五條市立奈良県立五條高等学校賀名生分校』*が、平成30年度（2018年度）入試より奈良県外の人も志願できる「全国募集」をスタートさせる。現在、寄宿舎を整備するとともに、学習方法を充実させるための地元農業団体等への協力要請や、学生募集PRに力を入れている。

※歴史的経緯から五條高校本校が県立で分校が市立となっている。

この全国募集は、「①市内農業従事者の減少や高齢化などの課題解決を目指し、地域の農業を支える人づくりにつなげる」、「②若者を五條に招致し、農業や学校行事などを軸に地域住民と交流してもらい、元気なまちづくりに貢献する」の2点を大きな目的として実施に至った。

■賀名生分校について

賀名生分校は、五條市西吉野町に位置する昼間定時制課程の高校で、1950年に当時の吉野郡賀名生村が地元の農業後継者の育成や教育の機会を保障するために設置した歴史ある学校。

1学年定員30名の農業科のみを設置する小規模校だが、全日制課程より1年長い4年間という修業年限と小回りが利く人数であることを活かし、地元農家や農業法人などの協力のもと、実習や就労を通して時間をかけて本格的な農業を学び仕事に結びつく力を養っている。

■具体的な教育方針

専門教科（農業）を重視し、特に実習を大切にしたカリキュラムを編成。実習の多くは地元農家や農業法人のプロから学ぶ。3、4年生では就労（アルバイト）を採り入れ、より質の高い技術習得を目指す。4年間の実習と就労を通じて、地域

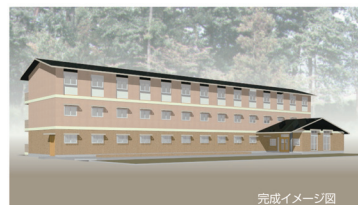
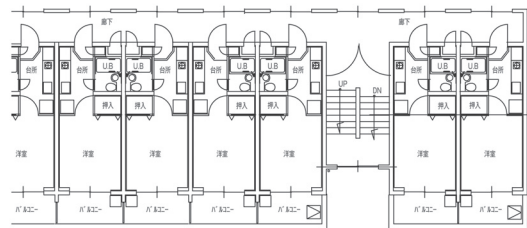
の農業従事者との密接な関係構築も重視している。

卒業後は、農業法人などに就職して地域農業の担い手として活躍してもらうとともに、その後の生徒の努力と意欲次第で土地を借りたりして独立することも可能になるよう、五條市の各部局が連携し、地元の農業団体や民間事業所などとも協力して支援していく方針だという。

■地域に愛される学校・生徒づくりに取り組む

全国募集開始に尽力した五條市教育委員会事務局・教育総務課の上田井朗^{うへだ いあきら}課長は、「地元農家の方々から“働きに来てほしい”と思ってもらえるような、地域に愛される学校・生徒づくりにオール五條で取り組みたい。教育・人づくり・まちづくりは全てつながっており、この学校を巣立った生徒たちが、将来五條に留まって地域を活性化したり、あるいは全国各地で五條の良さを発信してくれることを期待している」と語っている。

（吉村謙一）



賀名生分校外観（左上）、地元農家での実習の様子（右上）、旧県立五條病院看護師寮をリノベーションし整備中の寄宿舎。全室バス・トイレ・ミニキッチン付き（下）